

水害に備えるには

近年、温暖化の影響か水害も増えてきました。

地域の災害リスクを確認しておきましょう。

稲城市のハザードマップは、消防署でもらえる“いなぎ防災マップ”に載っています。

また、インターネットでは、“Web版いなぎハザードマップ”と検索しましょう。

1. 避難について

災害が発生する前に浸水想定区域や土砂災害の危険性がある場所から避難する「立ち退き避難」が基本です。

「立ち退き避難」をする余裕がない場合や、悪天候で外出することが危険な場合は「屋内安全確保」を行います。

立ち退き避難

- ①平時のうちに避難先、避難ルートを確認する
- ②避難方法を確認する。渋滞が予想されるので車は避けましょう。
- ③早めの避難を心がける。
- ④避難の際はご近所にひと声かけて。
- ⑤やむなく浸水の中を歩かなければならないとき
 - ・長靴は水の中に足を取られて危険です。運動靴を履きましょう。
 - ・水の中を歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は浅くても危険です。
 - ・傘や長い棒を杖にして、水の中の障害物を確認しながら注意して避難しましょう
 - ・マンホールの蓋が外れていることがあります。転落に注意しましょう。
 - ・避難する時は動きやすい服装で。持ち出し品はリュックサックで両手をあけましょう。



屋内安全確保

- ①窓、雨戸、カーテンを閉めましょう。家の中心部に近い窓の無い部屋や、家の上階で、がけなどの危険な場所の反対側の部屋に移動しましょう。
- ②鉢植えや自転車など、家の外の飛ばされそうなものや、流されそうなものを、屋内に入れましょう。ただし、身に危険が迫っている場合は、安全な場所への避難を優先しましょう。

2. 正確な情報を入手しましょう

稲城市では

- ・広報車、消防車両、消防団、防災行政無線
 - ・稲城市メール配信サービス
 - ・稲城市ホームページ
- などで情報を提供しています。
日頃から災害について考え、備えましょう。

稲城市メール配信サービス



稲城市ホームページ



河川や海などでの「水の事故」に気を付けましょう!

夏も真っ盛り、水遊びを楽しむ機会も増えていますが、水の事故への一層の注意が必要です。警察庁によると、令和4年中に中学生以下の子ども198人が水難に遭い、うち死者・行方不明者は26人でした。

水の事故は死亡事故につながる可能性も高く、溺れた状態が5分以上続くと脳に後遺症が残るおそれがあります。また、溺れるときは声や音を出さずに静かに沈むことがあり、近くにいたとしても気づくことができない場合もあります。



水辺では大人が子どもから目を離さず手の届く範囲で見守り、助けられる/周囲に助けを求められる状況を確認するようにしてください。

- ・「4人家族のうち、子ども2人が川遊びをしているうち、1人が流された。助けようとした保護者は流され死亡。子どもはライフジャケットを着用しており、近くにいた人に助けられた。保護者は未着用だった。」(国土交通省、事故発生:不明、死亡)
- ・「小学生の子どもが友人と川べりで遊んでいたところ、流された友人のサンダルを拾おうとして溺れて死亡したもの。これを目撃して救助しようとした大人2人のうち、1人も死亡した。」(警察庁、事故発生:令和3年4月、死亡)

河川や海などで遊ぶ場合には、それぞれの自然環境の特徴を理解し、危険を把握して、安全な行動を心掛けましょう。

危険を把握しましょう

- ・危険を示す掲示板がある場所、立入禁止の場所には近づかない。
- ・河川は穏やかに見えても、地形などの影響で深みや急な流れがあることを認識。上流の雨などによる急な増水にも注意する。
- ・岸から沖への流れ(離岸流)が発生しやすい河口付近、堤防沿い等の人工物付近、岩場などには入水しない。風の向きや波の高さ、潮汐を確認する。



安全な行動を心掛けましょう

- ・海水浴は、ライフセーバーや監視員等がいるなど適切に安全管理が行われている海水浴場で
- ・指定された遊泳エリア内を利用する。
- ・溺れている人を発見したら、無理に水に入らず、まずは通報する。
- ・帽子やサンダルなどの持ち物が流されても取りに行かないことを約束しておく。

また、用水路やため池、プールなど、身近な場所も子どもにとっては危険な場合がありますので、同様に注意しましょう。(消費者庁ホームページより)

クーリング・オフなど契約に関する相談は・・・

稲城市消費生活センター

稲城市百村2111番地

パルシステム生活協同組合連合会稲城事務センター3階

相談電話 042-378-3738

月～金曜日(年末年始・祝日除く)

午前9時30分～正午、午後1時～3時30分

